

分類	使用可否
一般米	可 ○
飼料米	可 ○
WCS	可 ○

誘引! 摂食! 速効的!

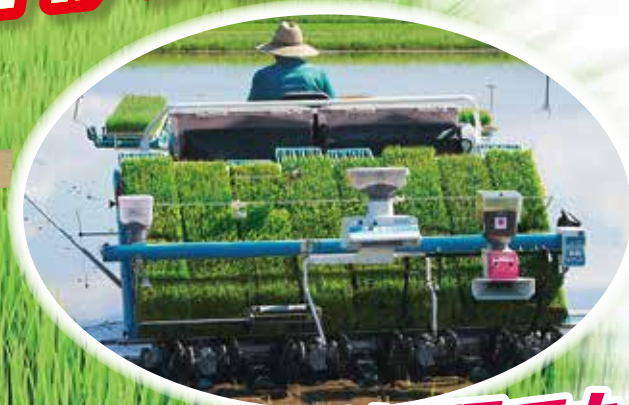
殺虫剤

スクミノン®

メタアルデヒド粒剤



WCS (稲発酵粗飼料) に使用可能!



田植え同時処理でも!



ドローン散布でも!

(無人航空機による散布の登録を取得)



商品説明と田植え同時処理の事例を動画で説明しておりますので、ぜひご覧になってください。➔



散布から効果発現まで



①誘引

スクミノンを餌と思い近づきます。



②摂食

スクミノンを食べます。



③効果発現

数分で麻痺が起こり、殻の中に閉じこもります。



④致死

約1日後に致死します。

スクミノンを食べると数分で麻痺が起こり、稲を摂食しなくなります。

自然に学び自然を守る



®はサンケイ化学(株)の登録商標です。

ジャンボタニシ防除剤 スクミノン[®]



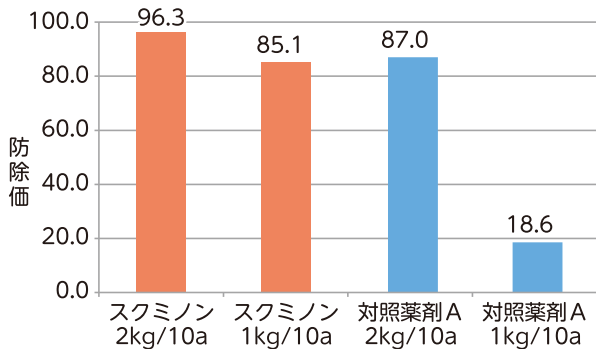
登録番号：農林水産省登録 第22153号
有効成分・含有量：メタルデヒド 10.0%
剤型：淡褐色粒状（ベイト剤）
人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
包装：2kg袋×8、10kg袋×1

適用害虫名及び使用方法

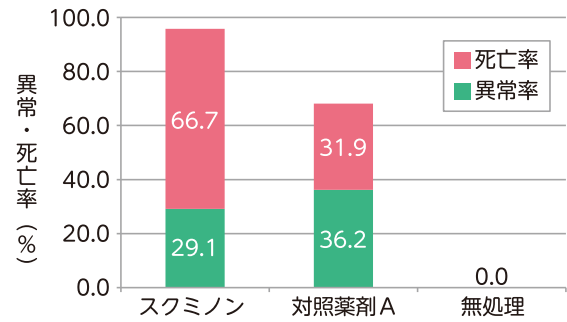
2021年12月8日現在の登録内容

作物名	適用害虫名	10アール当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メタルデヒドを含む 農薬の総使用回数
稲	スクミリングガイ	1～4kg	収穫60日前まで	2回以内	散布又は 無人航空機に よる散布	2回以内
れんこん		4kg	収穫45日前まで			

被害防止効果



ベイト摂食後の状態



試験場所：鹿児島県始良市加治木町 一般生産圃場
実施期間：2014年7月2日～7月9日
対象作物：水稻（品種：ゆめはやと） 6月30日移植
対象害虫：スクミリングガイ（殻高2～3cm）
区制：1区 100㎡(10×10m) 連制なし
薬剤処理：7月2日に各区所定量の薬剤を散布
試験方法：移植後、水深5cm以下になるように穴をあけた畔波シート（高さ30cm）で区割りをを行った。密度が低かったため、試験区内に殻高2～2.5cmの個体を平方メートルあたり1.8頭放飼した。
調査方法：薬剤処理7日後に各区150株（50株×3箇所）について、食害株数及び欠株数について計数を行った。

<食害度算出方法>

$$\text{食害度} = \frac{(\text{食害株数} \times 1 + \text{欠株数} \times 3)}{3 \times \text{調査株数}} \times 100$$

試験実施：サンケイ化学(株)

試験場所：鹿児島県南九州市川辺町 一般生産圃場
試験期間：1回目…2014年7月16日～17日
2回目…2014年7月18日～19日
対象害虫：スクミリングガイ（殻高2.6～3.0cm主体）
対象植物：水稻（品種：ヒノヒカリ）
区制：1区 18～28頭 2反復
処理方法：圃場内のスクミリングガイを捕獲し、同一圃場内の縁部にあたる湛水部分で1頭あたり1粒を与え、摂食させた。摂食後、スクミノンまたは対照薬剤Aを供試し、異常行動を起こした貝を回収し、50cm×50cmの容器（※1）に移した。また、ベイトが殻の中に入り込まないように、異常を呈して摂食しなくなった時点でベイトを除去した。※1：50cm×50cmの容器とは、水稻除草剤試験時に用いるプラスチック製の無処理枠であり、枠を圃場内に設置後、貝の逃亡防止用に3mmメッシュの網で上部を被覆したものとする。枠内の水深は3～4cmを維持した。
調査方法：処理後経日毎の状態（健全、異常、死亡）を調査。異常個体は殻の中に閉じこもって動かないか、異常行動を呈する個体とした。

試験実施：サンケイ化学(株)

使用上の注意事項

- スクミリングガイは稲苗の柔らかい時期に加害するので、は種後又は移植後、被害発生前に散布してください。
- 本剤は湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水やかけ流しはしないでください。
- 水田以外には絶対に使用しないでください。**
- 発生が多く認められる場合、登録の範囲内の多めの薬量で使用してください。
- 本剤を無人航空機で散布する場合は、次のことに注意してください。
 - 散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - 散布は散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - 事前に本剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、ほ場の端から5m離れた位置から散布してください。
 - 風向き、風の強さには注意し、できるだけ風の弱い時間に散布してください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の動植物等、諸物件へ影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域周辺の諸条件にも十分留意してください。
 - 薬剤が水源池、飲料水、養殖池、養魚田などに飛散・流入しないように十分注意してください。
 - 散布終了後は次の事項を守ってください。
 - ・使用後の空の容器はほ場などに放置せず、安全な場所に適切に処理してください。
 - ・使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管してください。
 - ・機体の散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に、初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は、農業用マスクなどを着用してください。使用後は、うがいをしてください。
- 犬、猫などのペット類や家畜、家禽等が多量に食べると死亡するおそれがあるので、食べる可能性のある場所での保管及び使用はしないでください。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管してください。

- ★使用前にラベルをよく読んでください。
- ★ラベルの記載以外には使用しないでください。

- ★使用後の空袋は圃場や水路などに放置せず、適切に処理してください。
- ★本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は令和3年12月8日現在の知見に基づいて作成しております。 2052(21-12)

自然に学び 自然を守る

クミアイ化学工業株式会社

本社：〒110-8782 東京都台東区池之端1-4-26 TEL.03-3822-5036
ホームページ <https://www.kumiai-chem.co.jp>



JAグループ

農協

全農

経済連

全農は登録商標 第4702318号